



イヌを活用した獣害対策のために

追い払い犬 自主訓練マニュアル

Version 1.7.2 (2008-6-10)

兵庫県 森林動物研究センター



目次

1	イヌが命令に従うとはどういうことか?	4
2	報酬と罰（良いことと悪いこと）	4
2.1	報酬	5
2.2	罰	6
3	命令の出し方（声符と視符）	6
4	訓練に必要な道具	7
4.1	首輪	7
4.2	リード（綱）	7
4.3	ロングリード	7
4.4	報酬飼料（ごほうびの餌）	8
4.5	餌入れ	8
4.6	笛	8
4.7	その他	8
5	服従訓練—イヌを制御する基本的な訓練	8
5.1	アイコンタクト（名前を呼ばれたら相手の目を見る）	9
5.2	犬座（すわれ）	9
5.3	伏臥（ふせ）	10
5.4	伏臥での休止、停座、立止（まで）	11
5.5	脚側行進（あとへ）	12
5.6	招呼（こい）	12
6	追い払い訓練—害獣を追い払うための訓練	14
6.1	発声（ほえろ）	14
6.2	方向変換（みろ）	14
6.3	前進（まえへ）	15
6.4	笛を使った呼び戻し（招呼の応用）	16
7	実際の追い払いへの適用—訓練項目の統合	16
8	訓練の時間と回数	17
9	訓練を成功させるためのコツ	17
9.1	訓練の「雰囲気」をつくる	17
9.2	命令に集中させる	17
9.3	指示が効きそうなタイミングで命令を出す	18
9.4	イヌの名前を呼んでから罰を与えない	18

9.5	わかりやすい命令を出す	18
9.6	報酬と罰は行動の「直後」に与える	18
9.7	痛みを加える罰は使わない	19
9.8	できるのがあたりまえになっても必ず褒める	19
9.9	命令は最小限。1回の命令で、1回の動作をさせる	19
9.10	餌や報酬の回数を少なくする	19
9.11	根気強く訓練をする	20

はじめに

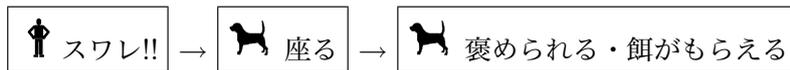
- このマニュアルでは、イヌの訓練方法について説明します。
- ここで言う「訓練」とは、人が命令（言葉で出された命令、または手振りで出された命令）を出したときに、決まった行動をすることをイヌに学ばせることです。
- 基本は、好ましい行動をしたときには褒める、という単純なことです。いろいろな訓練のコツがあります。
- また、訓練で習得した行動が消えないように維持していく方法についても紹介します。



1 イヌが命令に従うとはどういうことか？

イヌが人の命令に従うというのは、どういう状態を指すのでしょうか。

イヌのしつけでよく行なわれる命令に、「座れ」というものがあります。これをイヌの側から見ると、下のような出来事が起こっています。



イヌに限ったことではありませんが、これが動物が命令に従う基本的な仕組みです。これは次のような要素から成り立っています。



⇒ 刺激があるときには行動をするようになる

（「すわれ」と言われた時に座ると褒められるので、「すわれ」と言われたときには座るようになる）

イヌの行動を制御する場合には、この3つの箱を意識して考えることが重要です。

3つめの箱に「報酬」とありますが、ここに「罰」が入ることもあります。行動をした結果、罰が与えられる場合には、その行動をしなくなります。



⇒ 刺激があるときには行動をしなくなる

（子供に跳びかかると怒られるので、子供がいても跳びかからないようになる）

2 報酬と罰（良いことと悪いこと）

訓練とは、どの行動がして良いことで、どの行動がしてはいけないことなのかをイヌに理解させることです。そのため、して良いことをした場合には褒め（報酬を与える）、してはいけないことをした場合には、報酬が得られないようにします。

2.1 報酬

報酬には餌が使われることが多いですが、必ずしも食べ物を与える必要はありません。多くのイヌが好ましく感じるのは、食べ物、さわられること、遊んでもらうこと、などです。そして、これらのうれしいことをしてもらったときに「ヨシ」とか「good」というかけ声をいつも与えていると、うれしいことをしてもらわなくても（餌をもらえなくても）、かけ声をかけてもらえるだけで喜ぶようになります。「かけ声」を「餌」と同じようにうれしいこととして理解するようになります。

かけ声は、イヌが遠くにいても行動を褒めることができますので、餌を手渡しにくい状況で起きた行動を「良いもの」として褒めるためにはとても有効です（図 1, 2）。

イヌに「ヨシ」「Good」などのかけ声を「良いこと」として覚えてもらうには、次のような手順で褒め方を変えていく必要があります。

1. 訓練のはじめ…… 餌と「褒め言葉」となでることを報酬として用います。「ヨシ」と声をかけながら餌を与え、「ヨシ」と声をかけ続けてイヌの体をなでてやります。この時、餌をあげたり体をなでてから声をかけるのではなく、声をかけてから餌をあげたり体をなでてあげてください。
2. 褒め言葉になれてきたら…… 褒め言葉をかけたときに、イヌが尻尾をふったり嬉しそうな仕草をするようになってきたら、徐々に餌をあげる回数を少なくしていきます。毎回褒め言葉と餌をあげていたのを、褒め言葉は毎回かけるが餌は5回に1回ぐらいしか与えないようにします。
3. 最終的には…… 本格的な訓練に入る頃には、餌はほとんど使わないようにします。上記の段階をしっかりと踏んでいけば、イヌは褒め言葉自体を好ましいものとして認識しています。



図. 1 訓練のはじめには、褒め声をかけ、餌をあたえ、イヌの体をなでて褒めてやる（左）。徐々に餌を減らし（中）、最終的には、餌を使わずに訓練をする（右）。

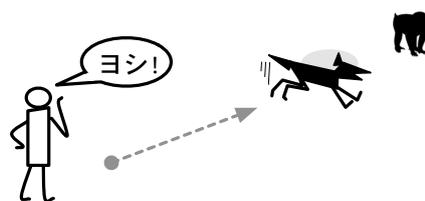
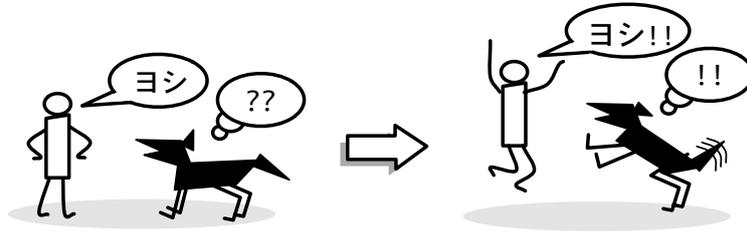


図. 2 餌を使わずに褒めることができるようになると、イヌが遠くにいる時にした良い行動を褒めて増やしてやることができる。

褒めるときのコツ

イヌは人の言葉が分かりません。このため、言葉だけで褒めても、イヌは自分が褒められて

いるのか怒られているのか理解できないと思ってください。人でも、自分の知らない言葉で話しかけられたときには、相手の身振り手振りを参考に、相手が何を伝えたいか推察しますが、イヌも同じことをしています。あなたがイヌに対して喜んでいることを伝える場合には、できるだけ大きな身振りで褒めてあげましょう。



(左) イヌは人の言葉が分からないので、手振りも身振りも無いと、人間が喜んでいるのか怒っているかも分からない。(右) 手振りや身振りがあると、人間が何を考えているのか、イヌが理解しやすい。

2.2 罰

イヌを叩いたり蹴ったりといった、痛みを与える罰を訓練に使ってははいけません。痛みを与える罰を用いると、イヌは人自体を怖がるように学習してしまいます。また、痛みや恐怖感は学習を妨げます。人間でも、体が痛かったり、脅されてビクビクしている時には、集中して物事を記憶したりできないものです。イヌが好ましくない行動をする場合には、その行動の目的となっているものを取り除き、「ダメ」や「イケナイ」「No」などのかけ声を与えてください。それでもイヌがその行動を止めない場合は、かけ声をかけながらイヌの口吻¹⁾を握ります。イヌの群れでは強い個体が弱い個体を懲らしめる際に、相手の口をくわえます (図 3)。そのため、人から口先を握られると、イヌは自分が悪いことをしたことを理解します²⁾。痛みを与えることが目的ではありませんので、力を込めて握る必要はありません (図 4)。



図 3 マズルコントロール。母イヌが子イヌを叱る時に、子イヌの口吻 (マズル) をすっぽりくわえる。

3 命令の出し方 (声符と視符)

様々な状況でイヌを制御するため、声と手振りを組み合わせて与えましょう。この2つの命令の出し方には次のような特徴があります。

- 1) 口吻というのは、顔から突き出た鼻先の部分のことです。「マズル」ともいいます。
- 2) これは「マズルコントロール」と呼ばれる訓練方法で、母イヌが子イヌの口先をすっぽり自分の口の中に入れて懲らしめる行動から由来しています。この方法は、イヌに痛みを与えず相手を懲らしめることのできる優れた訓練方法です。



図. 4 訓練で用いる罰。イヌの目を見て「ダメ」「イケナイ」「No」などの叱り声をかけ、5秒程度無視する（左）。イヌがこちらを見なかったり、他に気を取られている場合は、軽くリードをしゃくって注意をひく（中央）。イヌに痛みを与えることが目的ではないので、強くリードを引っ張らない。してはいけない行動をイヌが止めない場合には、イヌの口吻（マズル）を軽く握って叱り声をかける（右）。

かけ声（声符）^{せいふ} 音によって与える命令で、イヌが見えない場所（藪の中など）にいても、イヌがこちらを見ていなくても命令を伝えることができます。

手振り（視符）^{しふ} 手振りによって与える命令で、待てなどの継続する（ずっと命令を出し続ける必要がある）行動を訓練する場合には、何度も声をかける必要が無いので便利です。また、イヌの中には目で相手を追う方が得意な犬種や個体もいます。

4 訓練に必要な道具

イヌの訓練には次のような道具が必要です。

4.1 首輪

すでに首輪をつけているならば、現在使っている首輪を訓練に用います。普段は室内で飼っており首輪をしていない、または鎖で直接イヌを繋いでいるという方は首輪を用意してください。首輪には市町村から交付された鑑札をつけてください。チョークチェーンと呼ばれる引っ張るとイヌの首が絞まる首輪がありますが、訓練に慣れていない方が使う道具ではありません。どうしてもこのタイプの首輪を使いたい方は訓練士に相談してみてください。首輪ではなく胴輪をお使いの方は、首輪を用意してください。胴輪は飼主の指示をイヌに伝えるのに不向きな場合があります。

4.2 リード（綱）

すでに散歩用のリードをお持ちの方は、それを使ってください。極端に短かったり長かったりするものは適しません。1.5-2.0m ぐらいの長さが良いでしょう。太さは、飼主が握りやすく、イヌの負担になるほど重くないものを選んでください。手になじみ、しなやかなリードが訓練には適しています。

4.3 ロングリード

5-10m 程度のロングリード（長い綱）を用意してください（図 5）。イヌを遠くから呼び戻す訓練をする際に用います。素材の割に値段が高い場合がありますので、ホームセンターなどで切り売りのロープを買った方が安く入手できるかもしれません。



図. 5 市販のロングリード

繋がれていることをイヌが意識しないように、軽く柔らかい素材の物が良いです。

4.4 報酬飼料（ごほうびの餌）

イヌを褒める時に与える餌を用意します。普段粒状のドッグフードを与えている場合は、その餌でかまいません。ペットショップやホームセンターで売られているイヌ用のお菓子をを用意しても良いです。特別な物を用意する必要はありませんが、固めに焼かれたクッキー状の物で、においが少ない小粒の餌が適しています。

4.5 餌入れ

餌を服のポケットなどに入れると、餌の粉や油で服が汚れたり、餌の臭いが付いてしまいます。こういった場合には、身につけられる餌入れがあると便利です。釘袋やチョークバッグ³⁾など、またポケットのついた作業用の前掛け（エプロン）などを使うと便利です。

4.6 笛

離れたイヌに指示を与える際には、笛を使うとより遠くのイヌに、楽に命令を伝えることができます。イヌに指示を与える笛として「犬笛」というものがありますが、必ずしも専用の犬笛でなくてもかまいません。



図. 6 犬笛

4.7 その他

軍手や革手袋は、寒いときには防寒に、また訓練時には怪我の予防にも役立ちます。

5 服従訓練—イヌを制御する基本的な訓練

実際にイヌに教える訓練項目と、その訓練の方法をご紹介します。これらの訓練項目は、一般に「服従訓練」と呼ばれ、イヌが人の言うことを良く聞くようにするために行なわれるものです。ここ

³⁾ ロックライミングで使う滑り止めの粉のことを「チョーク」と呼び、これを入れる袋がチョークバッグです。ベルトで腰に固定し、中に入れたものがこぼれないように折り返しがついており、訓練で使う餌を入れるのに都合の良い形になっています。

にあげた訓練項目は、簡単なものから順に並べてあります。順番に訓練をしていくと良いでしょう。

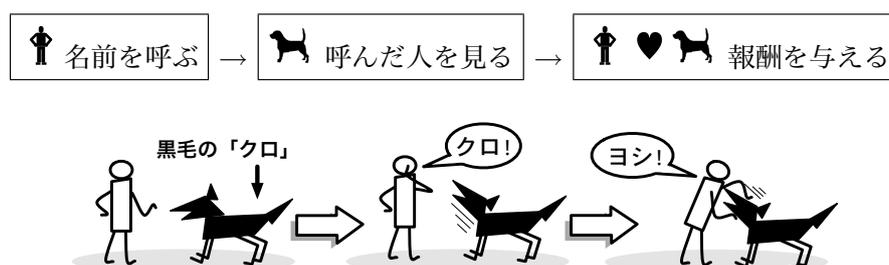
訓練の基本的な流れは、1) 命令を出す → 2) イヌが目的の行動する → 3) 行動が正しければ報酬を与える・間違っていれば罰を与える、というものです。初めて行なう訓練項目の場合、都合良くこちらの期待した行動をイヌがとってくれることはほとんどありません。イヌに、こちらの期待する行動をとるように誘導してやる必要があります。

5.1 アイコンタクト（名前を呼ばれたら相手の目を見る）

イヌを命令に従わせるには、まず命令に注目させる必要があります。そのためには、名前を呼ばれたら、呼んだ人の目を見る（アイコンタクトをとる）ことを学習させます。

命令（声符）： イヌの名前

命令（視符）： 握った手を口元に近づける



名前を呼んでもこちらを見ないイヌには、次の方法で誘導してやります。

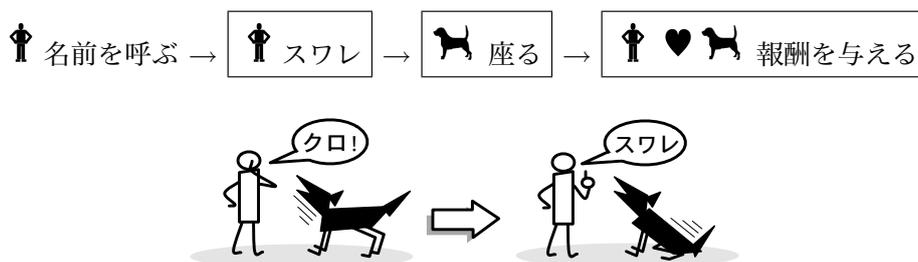
1. イヌの目の前で餌を手に握る
2. イヌの名前を呼んで、餌を握った手を自分の口元にもっていく
3. イヌが餌につられて人の顔を見たら褒めて、餌を与える
4. 目があわない場合には、餌を指先でつまんで、自分の口元で振ってみせる

5.2 ^{けんざ}犬座（すわれ）

基本的な動きの制御として、イヌに座ることを学ばせます。

命令（声符）： すわれ（sit：シット）

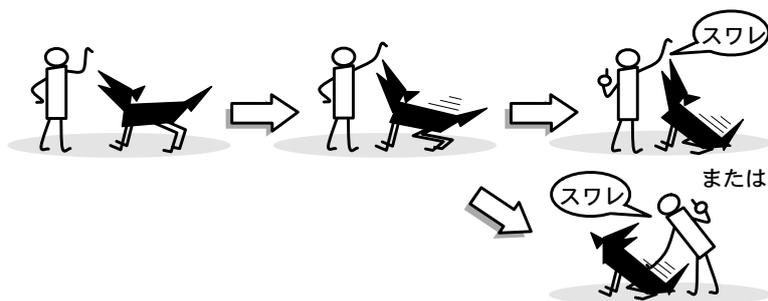
命令（視符）： 人差し指をたてる



自発的に座らせるためには、餌を持った手をイヌの頭上にかざします。イヌはその場で飼主の餌を持った手を目で追いつつ、自発的に座ります。この方法で座らない場合には、軽く、ゆっくり腰

を押してやります。

座れの姿勢をとらせることができたなら、すかさず「すわれ」の命令を与えて、良く褒めてやります。

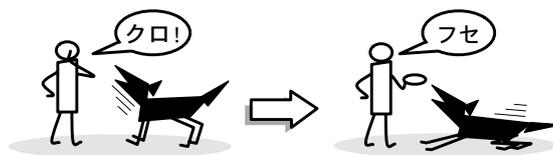


5.3 ^{ふくが}伏臥（ふせ）

基本的な動きの制御として、イヌに伏せさせることを学ばせます。伏せはイヌをその場に留まらせたり、してはいけない行動をしたときに制止するためにも利用できる、とても重要な命令です。反抗的なイヌや、臆病なイヌの場合は伏せることを嫌がる場合があります。こういった性格のイヌには、ゆっくりと、あせらずに訓練します。

命令（声符）： ふせ（down：ダウン）

命令（視符）： 手のひらを地面に向けておろす



自発的に伏せさせるためには、最初にイヌを座らせておきます。次に、餌を握った手をイヌの鼻先に見せ、その手を、座ったイヌから届かない低い位置にずらしします。イヌは座った状態では餌に口先が届かないので、じりじりと低い姿勢で体を伸ばし、自然と伏せの姿勢になります。

上記の方法で伏せの姿勢へイヌを誘導できない場合は、低い障害物をくぐらせるようにして伏せの姿勢をとらせます。訓練をする人は軽くしゃがみ、片足を伸ばし、足の下からイヌに餌を見せて、イヌが姿勢を低くしてのぞき込むようにし向けてみます。イヌは餌に近づくために、訓練をする人の足の下をくぐらなくてはいけないため、自然と伏せの姿勢をとります。この方法でも伏せない場合には、軽く背中を押したり、前肢を前の方へ伸ばしてやって伏せの姿勢をとらせます。

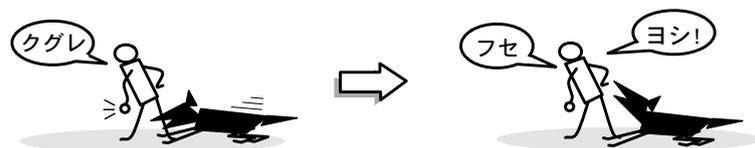
伏せの姿勢をとらせることができたなら、すかさず「ふせ」の命令を与えて、よく褒めてやります。

足の下をくぐることをかたくなに嫌がるイヌもいますが、こういう場合は「またくぐり」から教えてやるのも1つの方法です。肩幅程度に足を開いて立ち、「クグレ」の命令でまたの下をくぐらせます。これができるようになると、低い位置で足の下をくぐることに抵抗することが少なくなります。抵抗無く股の下を潜るようになったら、今度はひざまずいた状態でクグレをさせたり、前述の伸ばした足の下をくぐらせる方法などで伏せの姿勢をとらせるようし向けて、うまく伏せの姿



図. 7 股を広く開いて立ち、イヌに対して背中向きの状態で股の下から餌を見せる。

勢になった瞬間に「フセ」と声をかけて褒めてやります。



5.4 伏臥での休止、停座、立止 (まで)

その場で待つことを教えます。立ったまま待たせると、すぐに歩いたり移動する行動に移りやすいため、最初は伏せて待たせることを教えます。次に座った状態、最終的には立って待たせることができることを目的とします。活動的なイヌの場合は待つことが苦手なことがありますので、最初は短い時間の「待て」をさせ、徐々に時間を延ばしてゆくように訓練します。

命令 (声符) : まで (stay : ステイ)

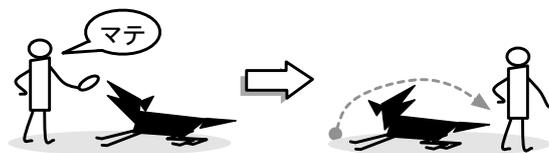
命令 (視符) : 手のひらをイヌに向けて押し出す



最初は、3秒程度の短い「マテ」をさせてください。短い時間の待てができるようになったら、徐々に時間を延ばしていきます。この訓練のコツは、短い時間の待てがちゃんとできるようになってから、時間を延ばしてゆくことです。訓練をする側からすると、「どのくらい待てるか」を試してみたくなり、どうしても長く待てをさせてしまいがちです。これはイヌの側から見ると、待てをさせられたあげく、じらされて、毎回失敗して (失敗させられて) 怒られるという状態です。このような状況では、イヌが「待て」という命令自体に悪いイメージをもってしまい、なおさら待てができなくなるといった悪循環になります。確実にできる短い「待て」をさせ、失敗させないようにしつつ、時間を延ばしていってください。

また、待てをさせたまま、訓練をする人がイヌの周りを歩いても、伏せの姿勢を保っていられるように訓練をして、待ての精度を上げていきます。待てのまま、周りを歩いても動かずにいること

ができるようになったら、待てのままイヌから離れる訓練をしましょう。これも短い距離（2-3m）離れて戻ることから始めて、10m、20m と離れてもイヌが待っているように徐々に距離を伸ばして訓練してください。



5.5 きゃくそくこうしん 脚側行進（あとへ）

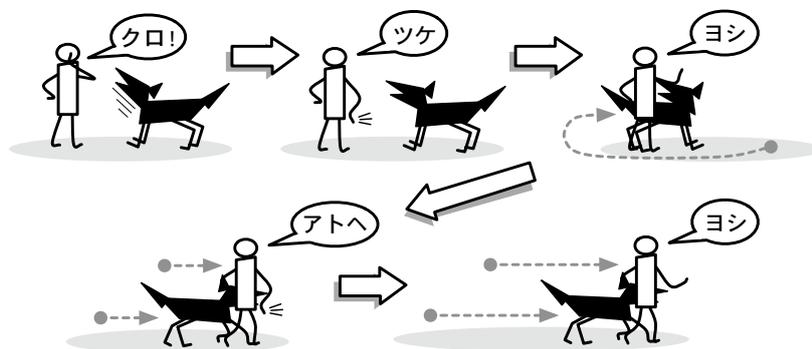
飼主の左側に寄り、「ヨシ」の命令（報酬）があるまで飼主について歩きます。最終的にはリード無しでも飼主のそばについて歩くことができるよう訓練します。

命令（声符）： あとへ（heel：ヒール）

命令（視符）： 左太ももの外側を軽く叩く



飼主はリードを短めに持って、イヌの鼻先が自分の左膝の横に来るようにします。はじめはゆっくりと歩いてください。イヌがちゃんとして来ている時には、小さな声で「そうそう……」などこまめに褒めてあげましょう。イヌが前へ出ようとしたり、ついてこないなどした場合には、立ち止まって「ダメ」などの声をかけます。



リードを引っ張って歩くイヌの場合は、リードが張ったら飼主は方向転換をします（図 8）。イヌは、また前へ出ようと飼主の横を歩きますので、横に並んだときに褒めます。これを繰り返して、イヌに、飼主の横を歩くことが良いことであると教えます。

5.6 しょうこ 招呼（こい）

ロングリードを使ってイヌをある程度自由に歩かせ、イヌがこちらを見ていないタイミングで名前を呼んで「コイ」と命令を出します。最初は近い距離から始めて、徐々に距離を伸ばしていきます。最終的にはリードを解いて遠い場所からでも戻ってくるように訓練の精度を上げてきます。

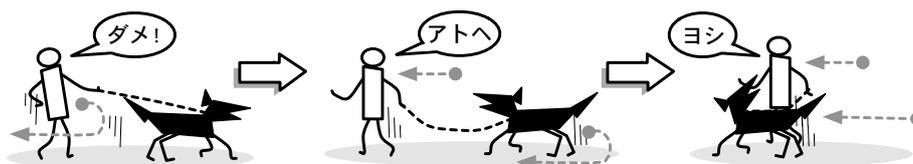
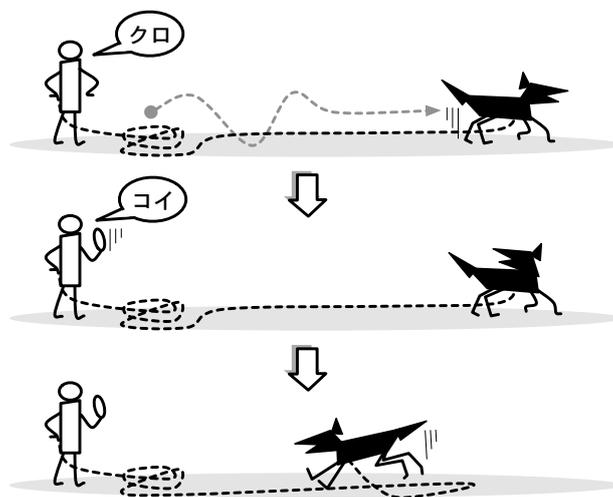
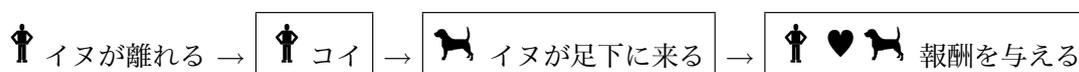


図. 8 (左) イヌがリードを引っ張って歩く。飼主は「ダメ」などの声をかけて反転する。(中) イヌも反転して、飼主の前でようと、飼主の横を歩きすぎる。(右) 飼主は、イヌが自分の横を通り過ぎる時に、好ましい位置で「ヨシ」などの声をかける。

待てをさせてから招呼する訓練法もありますが、この方法だけで招呼を教えると、イヌが待てと招呼の連続性をおぼえてしまう場合がありますので注意しましょう。こういうイヌは、待てをさせると、次に呼んでもらえるのを待ちきれずに腰を浮かせてじりじりと近づいてきてしまったり、命令以外の声、飼主の動きに反応して戻ってきてしまうことがあります。

命令 (声符)： こい (come : カム)

命令 (視符)： 指先を上に向けて手招きする



他のものに気を取られるなどして、イヌが呼んでも来ない場合には、リードを軽くしゃくって注意をひいてください。強制的に引き寄せることが目的ではないので、リードでイヌを引っ張ったり、たぐり寄せたりしてはいけません (図 9)。

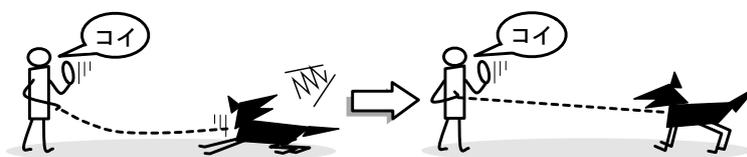


図. 9 呼んでも近寄らない場合は、「コイ」の呼び声と共にリードを軽くしゃくってイヌの注意を飼主に向ける。リードをたぐることはせず、イヌの自発性で飼主の元に戻ってくるよう、あせらずに訓練を続ける。

最初はイヌの気を惹くよう大きく体を動かして呼んでみてください。名前を呼びながらゆっくりと離れていくなどの方法もイヌの気を惹く良い方法です。逆に、イヌを迎えに行く、捕まえようとするのは止めましょう。遊び好きのイヌの場合、飼主のそばをギリギリで通り過ぎると追いかけてこをしてくれると学習してしまう場合があります。

他の訓練と同様、呼ばれた時に（＝刺激）近づくと（＝行動）良い事が起こる（＝報酬）と思わせないとはいけません。呼ばれたら（＝刺激）近づくと（＝行動）つかまえられる（＝罰）ような状態では、イヌは呼ばれても戻ってきません。さんざん逃げ回ったあげく、やっと捕まえたとしても叱ってはいけません。呼ばれても来ないようなイヌは、たいていこういった悪循環で、どんどん逃げるようになります。10分も20分も逃げ回り、やっと手元にイヌが来たときにはお仕置きをしてやりたくなる気持ちも分かりますが、ぐっところえてイヌを褒めてください。

6 追い払い訓練—害獣を追い払うための訓練

以下の訓練は、害獣を追い払うためのものです。訓練の方法は、イヌの性質によって変わってきますので、訓練士と相談しながら、イヌに合った方法で教える必要があります。

6.1 発声（ほえる）

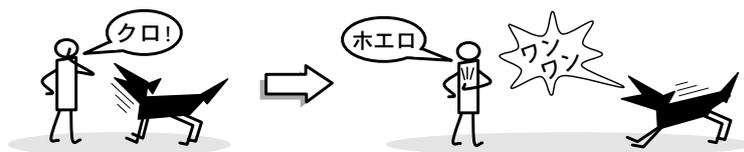
合図を出した時に吠えるように訓練します。害獣はイヌに吠えられるのを嫌います。合図で吠えさせることができるようになると、他のこと（例えば、サルを見つけた場合）に関連して吠えさせるなどの応用的な訓練の下地にもなります。

命令（声符）： ほえる（bark：バーク / speak：スピーク）

命令（視符）： そろえた指先で自分の胸を叩く



最初は、「ホエロ」の命令にあわせて、イヌが吠えるような刺激を与えて誘導します。たとえば、ボールを見せてそれを与えずにじらして吠えさせるなどの方法がよく用いられます。命令を出したとき以外の吠えは絶対に褒めないでください。また、この訓練は家の中では絶対にさせないでください。このルールをイヌに接する人、家族全員で徹底しないと、イヌの要求吠えを助長してしまうことがあります。



6.2 方向変換（みる）

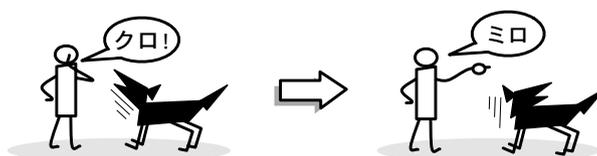
指さし方向を見る（睨む）訓練です。イノシシなどの害獣は、イヌに睨まれるのを嫌い、回避行動をとります。害獣を追い払うのに有効な訓練の1つです。

命令（声符）： みろ（look：ルック）

命令（視符）： イヌが見ていない方向を指さす



イヌには、人が指さした方向や、人の視線の方向を見る行動が元々あります。最初は根気よく指を指し、その方向を見たら褒めてやることで、今まで無意識にしていたことを、命令によって意識的に引き出せるようにします。



6.3 前進（まえへ）

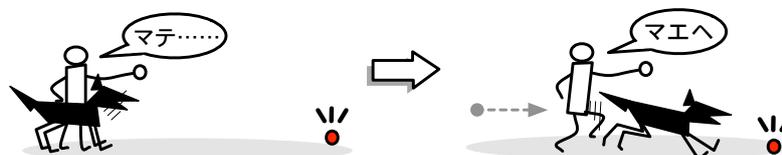
人が腕を突き出した方向に向かって、イヌを移動させる訓練です。遠隔操作とも呼ばれる訓練項目です。害獣が現れた際に、人の指示に従って害獣を追わせる命令になります。特に、飼主への依存心が強く、リードを解かれても飼主から離れないようなイヌにサルを追わせる際に重要になります。

命令（声符）： まえへ（go：ゴー）

命令（視符）： 行って欲しい方向へ握った拳を突き出す

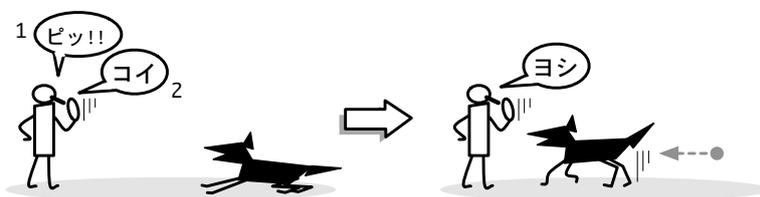


最初は、イヌが好む目標物（餌やボールなど）を前方に置き、イヌを十分に惹きつけてから「マエへ」の号令をかけて、目標物へ走り寄ります。餌を置く場合は、お皿などを使って餌の位置が分かりやすいようにすると良いでしょう。これを続けると、イヌは「マエへ」と言われた時には、前方に好ましい物があると考えようになります。距離は 2m 程度の短い距離から始め、徐々に長くします。

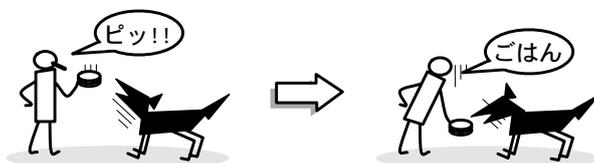


6.4 笛を使った呼び戻し（招呼の応用）

笛の音を使って招呼（こい）をさせます。まず、普通の招呼がしっかりとできるように訓練してあることが前提になります。次に、普通の招呼の命令を与える直前に、笛を吹き、イヌを呼び寄せます。



イヌが笛の音で飼主の元に戻ってくるためには、イヌにとって笛の音が好ましいものであると思わせることが重要です。そのためには、普段の生活の中で、餌を与える時に笛を吹くなどのことをすると良いでしょう。



7 実際の追い払いへの適用—訓練項目の統合

実際の追い払いでは、ここまで説明してきた訓練項目を組み合わせて害獣を追わせます。いわば、1つ1つの訓練項目は追い払い動作の部品で、実戦ではこれらの部品を組み立てて、一連の追い払いを完成させると考えてください。

部品の組立を図10に示しました。まずは、サルなどの害獣を飼主が見つけます。その際、イヌが害獣を見つけられないようであれば、「見ろ」の命令を使って害獣の存在をイヌに気づかせてください。勘の良いイヌであれば、すぐに動物の気配に気がつくでしょう。次に、「前へ」の命令を使って害獣を追わせます。この訓練ができていない場合でも、飼主と一緒に害獣を追うことで、追うべき対象をイヌが徐々に認識するようになります。「吠えろ」の訓練ができていれば、害獣を追う際に吠えさせてください。ある程度害獣を追いかけたら、イヌが見えなくなる前に呼び戻してください。イヌが戻ってきたら、いつもより良く褒めてあげてください。

これら一連の動作により、イヌはサルなどの害獣が現れた時にはリードを放してもらえ、飼主と遊んでもらえるようになると思います。こういった期待感から、イヌは害獣が現れた際には飼主に知らせるようになります（吠えたり、そわそわしたりします）。兵庫県の先行事例では、追い払いの79%でイヌは害獣の存在に自分で気がつき、追い払いの81%の場合はイヌが自主的に害獣を追い、追い払い終了後のイヌの回収にかかる時間は78%の場合で5分程度という結果が得られています。

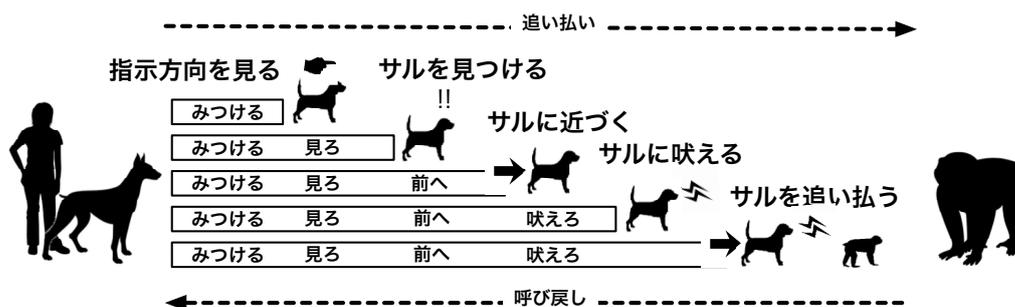


図. 10 1つ1つの訓練項目と、実際の追い払い動作。訓練した項目を組み立てて、一連の追い払いをイヌに実施させる

8 訓練の時間と回数

特別な方法を用いなければ、イヌの集中力は通常 10–15 分程度です。無理せず、短い時間に集中して訓練するのがコツです。1 回 15 分程度の訓練を、1 日に 1 回してください。2 回できる場合は、午前中に 1 回、午後に 1 回と、なるべく時間を空けて行なってください。

1 回の訓練では、1 つの命令を 5 回から 20 回ほど訓練するのが良いでしょう。

9 訓練を成功させるためのコツ

9.1 訓練の「^{モード}雰囲気」をつくる

イヌを命令に従わせるコツの 1 つは、「スワレ」や「フセ」の命令に従うことを覚えさせるだけでなく、人が何か命令を出したら、それに従わなければならないというルールをイヌに理解させることです。ただし、いつでも人から命令がきたら従うということを強要すると、イヌはいつも人に集中していなければならない、落ち着く時間がなくなってしまいます。これを避けるためには、「今は命令に従わなくてはいけない時だ」ということをイヌに教えてやると効果的です。

具体的には、仕事をさせるときに特定のバンダナをイヌに着けたり、命令を出す人がいつも同じ帽子をかぶるなどのルールを決めてやることです。これによって、バンダナを着けられた時は（飼い主がいつもの帽子をかぶった時には）人から命令が来る、そしてそれに従わなければならない、というルールを理解してくれます。また、バンダナを着けていない時（飼い主がいつもの帽子をかぶっていない時）は、ゆっくりしていてもよいことを学びます。これにより、集中して人に従うイヌをつくることができます。

9.2 命令に集中させる

せっかく命令を出しても、イヌが知らんぷりしていたり、他のものに注意を奪われていれば、命令に従わせることはできません。このため、名前を呼ばれたら、呼んだ相手の顔を見るように訓練をする「アイコンタクト (9 ページ)」が重要です。この訓練は比較的簡単ですが、確実にイヌが名前に反応するよう、時々訓練を繰り返してください。

9.3 指示が効きそうなタイミングで命令を出す

訓練の時には、なるべくイヌが言うことをききそうなタイミングで命令を出してください。たとえば、イヌがおしっこをしている時、首の後ろを足で掻いているときなどは、いくら指示を出しても命令に従えません。こういった状況で何度も命令に従うことに失敗してしまうと、命令の効きがどんどん悪くなっていきます。どんな状況であっても指示に従わせるというのは目標としては立派なことですが、それには別の訓練方法が必要になってきます。ましてや、覚えはじめの訓練項目は、失敗しないことが重要になりますので、イヌの様子を良く観察して、イヌにとって指示に従いやすい状況で命令をだしてあげてください。名前を呼んで、目があつたときに命令を出すのが基本です。

9.4 イヌの名前を呼んでから罰を与えない

罰を与える時には注意点があります。それは、イヌの名前を呼んでから罰を与えてはいけない、ということです。よく、「～（イヌの名前）～、ダメ！」と叱っているイヌの飼い主の方がいますが、これを続けると、イヌは名前を呼ばれた後に怒られるものと考えようになります。この結果、名前を呼ばれると萎縮したり、目を伏せたり、ひどい場合には名前を呼ばれると逃げるようになることもあります（アイコンタクトの訓練成果を消してしまいます）。叱るときに名前を呼んではいけません。

9.5 わかりやすい命令を出す

命令は、イヌがこちらを見ている時に出します。また、いつも同じ声符、視符、褒め言葉、叱り言葉を出すよう心がけてください。特に陥りがちなのが、褒め言葉を換えてしまうことです。「よし」だったり「良い子だねー」だったり「賢いねー」だったり、褒め言葉が変わってしまう方がいます。これらの言葉が同じ意味であることをイヌが理解するには時間がかかります。褒める時は「ヨシ」、叱る時は「ダメ」「イケナイ」など、決まった言葉を使ってください。命令を簡単な英語にしようというのは良い方法です。「good」、「No」などの母国語ではない言葉は、無意識のうちに言い換えてしまう可能性が低く、また訓練以外の時にはまず使われないので、イヌにも混乱が少なくなります。

もし、家族の中の複数の人がイヌの訓練をする場合には、同じ言葉（命令）を使って訓練ができるよう、よく話し合っておいてください。

9.6 報酬と罰は行動の「直後」に与える

報酬と罰を与える時に注意しなければいけないのは、どちらも「良い行動・悪い行動」をした直後に与えるということです。具体的には1秒以内に与えるのが理想的です。時間が経てば経つほど、訓練の効率が悪くなります。よく、イヌが壊した（噛んだ）物を見つけて、噛まれてからかなり時間が過ぎた後にイヌを叱る方がいますが、行為の後に時間が経っている行動は学習させるのが困難です。

9.7 痛みを加える罰は使わない

訓練でイヌが命令に従わないと、ついイライラしてしまいます。ですが、叩いたり、リードを強く引いたりするのは逆効果です。動物は、痛みや恐怖を感じているときには学習能力が低下します。訓練がうまくいかないからといって、さらに訓練がうまくいなくなるようなことをするのは不合理です。

また、痛みを加える罰を用いた場合には、「その行動はしてはいけない」ということよりも、人に対する恐怖感が学習されてしまいます。こういった方法で訓練をされたイヌは、人に対して攻撃的になることがあり、周囲の方に危害を加える可能性を大きくしてしまいます。

9.8 できるのがあたりまえになっても必ず褒める

「うちのイヌは訓練所に預けた時はすごく良く言うことをきいた」「訓練士の命令には良く言うことをきく」とおっしゃる飼主さんがいます。これは別にイヌが飼主さんをなめているから言うことをきかないわけではありません。たいていの場合は飼主さんがイヌを褒めていません。イヌは「この人の言うことをきいても褒めてくれない」「この人が命令するときはずっと罰を受ける」と学習していることがほとんどです。イヌの訓練で重要なことは褒めることです。罰は最小限で、褒めは最大限使うのがコツです。ちょっと目が合った時も、いつもちゃんとできるお座りもしっかり褒めてあげてください。

9.9 命令は最小限。1回の命令で、1回の動作をさせる

「スワレ」と命令を与えてもイヌがすぐに座ってくれず、何度も「スワレ」と繰り返してから渋々座っていませんか？

1回の命令を出してから、その行動をイヌにとらせるのに時間がかかる場合には、ある程度の時間がたったら「ダメ」などのかけ声を与えて、命令を仕切り直してください。命令の仕切り直しには、イヌを何歩か歩かせるなどすると良いでしょう。はじめはイヌが確実に命令に従うことができる時間から始めてください。その後、徐々に時間を短くしていきます（図 11）。

9.10 餌や報酬の回数を少なくする

逆説的に思われるかもしれませんが、訓練がうまくいくようになってきたら、餌や体をなでてやるといった直接的な報酬は少なくします。具体的に言うと、命令に従ったときには毎回餌を与え、体をなでていたのを、褒め声は毎回かけても餌や体をなでるのは5回に1回、10回に1回にするということです。

餌を与えないと、命令に従わなくなるように思うかもしれませんが、逆に、直接的な報酬を少なくすると、訓練に熱心にうちこみ、イヌは訓練した内容を忘れにくくなります。また、餌を使わずに声だけで褒めることができるようになると、遠く離れた所にいるイヌの行動を褒めることができるようになります。



図. 11 (上) 1回の命令で1回の動作をさせる。命令に従わない場合は、イヌに失敗を伝え、指示を解除する。(中) 一定の時間内で好ましい行動が得られれば、素早く褒める。(下) 1回の命令の有効な時間を徐々に短くしていく。

9.11 根気強く訓練をする

イヌの性格によって、訓練項目との相性があります。伏せができない個体、待てができない個体などがあります。ですが、根気強く訓練を行なってください。一般に、新しい行動を憶えさせる場合には、徐々にその行動ができるようになるというよりは、ある瞬間から急にできるようになることが多いと言われています。たとえば、20回ずつ命令を出して、何回正解するか記録するとします。この場合、成績は正解数が20回のうち5回、10回、15回、20回と徐々に良くなっていくのではなく、たいていは20回のうち1-2回しかできない状態が長く続き、突然正解数が20回中15回ぐらいに跳ね上がります。まったくできないからといって気を落とさず、根気よく続けることが重要です。

イヌを活用した害獣対策のために
追い払い犬 自主訓練マニュアル

Version: 1.7.2

Type set: 2008-6-10, 2:47 P.M.

作成：平成 17～19 年度 農林水産研究高度化事業成果

改訂：平成 20 年度～ 兵庫県森林動物研究センター研究事業

発行者：兵庫県 森林動物研究センター

著者：石川圭介・稲葉一明・坂田宏志

〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940

電話：0795-80-5500

FAX：0795-80-5506

<http://www.wmi-hyogo.jp/>

本文書は平成 17～19 年度の先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「獣害回避のための難馴化忌避技術と生息適地への誘導手法の開発」から研究費を得て作成された。

この文書は「Creative Commons 表示-非営利 2.1 日本 (<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.1/jp/>)」のライセンスで公開されています。